



### 熱気あふれる好プレー！！

6月11日(日)、上山田公民館主催の支分館親善ソフトバレーボール大会が、上山田農業者トレーニングセンターで行われました。

目も心もくぎ付けにする好プレーの連続でした。

## 特集 語り継ぎたい わたしの戦争体験

### 《主な掲載記事》

各館の活動報告……………	2～3
短詩型文学祭作品募集・	
成人式のお知らせ……………	3
特集 語り継ぎたい	
わたしの戦争体験……………	4～6
これからも平和を願って…	6～7
文化祭のお知らせ……………	7
もっと知りたいふるさと……………	8
	(大池地区)

# 各館の活動報告

## 屋代公民館

### 分館対抗野球大会

#### 野球大会(第64回)

平成30年以降、野球大会は、グラウンドコンディション不良とコロナ禍により開催できませんでした。今年度は天候に恵まれ梅雨の晴れ間というより夏本番のような暑さの中、6月18日(日)に千曲橋緑地グラウンドにて開催しました。久々の大会にどの試合も熱戦を繰り広げました。

- 優勝 屋代第3分館
- 準優勝 屋代第5分館
- 3位 森合同、土口分館



おめでとう！ 優勝旗の授与

#### 排球(ソフトバレーボール)大会(第53回)

令和元年以降コロナ禍により排球大会は未開催でしたが、6月11日(日)に東部体育



準優勝の森東分館

館で開催しました。外は1日を通して雨が降り涼しさを感じる天気でしたが、体育館の中は白熱した試合で熱気にあふれていました。

- 優勝 屋代第3分館
- 準優勝 森東分館
- 3位 屋代第5分館

## 埴生公民館

### 4年ぶりの埴生地区球技大会

新田分館長 中澤 洋

5月21日(日)、令和元年以来となる埴生地区球技大会が開催されました。4年ぶりの野球とマレットゴルフの2競技に絞っての開催でしたが、野球は千曲橋緑地グラウンド、マレットゴルフは千曲橋緑地マレットゴルフ場においてそれぞれ熱戦を繰り広げました。



選手勢揃い がんばるぞ！

素晴らしい選手宣誓で始まった今大会は、大勢の方々に参加・応援していただき、久しぶりに賑やかな光景を見ることができました。

競技結果は、野球Aブロック優勝が桜堂分館、Bブロック優勝が杭瀬下分館、マレットゴルフ優勝は新田分館でした。

当日は真夏のような暑さでしたが、埴生地区の交流が図られた良い大会だったと思います。優勝された皆さんも残念ながら優勝に手が届かなかった皆さんも、来年の参加をお待ちしています。



「入るか？」ボールの行方を見守る

最後になりましたが、参加いただきました皆さん、そして協力いただいた各分館の役員の方々に、心より感謝申し上げます。

## 稲荷山公民館

### ボッチャ体験会に参加して

桑原 池内 有紀

6月8日(木)、稲荷山公民館講堂においてボッチャ体験会が開催されました。

「球技大会」中止に伴う代替え企画とされたこの「ボッチャ」は、パラリンピックの正式種目で、今回、私はルールを知らないままでの参加となりました。

会場に着くと、2人の指導員がスタンバイをしていて、説明を受けました。何ゲームか繰り返すうち、なんとなくコツを掴んでいきました。

「カーリングに少し似ているな。適度な運動量と、頭の体操と一緒にいるところが良いな」と思える余裕も出てきました。

自分のチームの順番を待つ間は他チームの様子を見守り、「おっ、上手い！ そっちだ、頑張れ！」等の掛け声を参加者同士で送り合い、和やかな雰囲気の中、ゲームを終えることができました。



右の女性が筆者の池内さん

「軽く運動をしたいな」と、気の合う同士で集まる時に、安心して選べるスポーツだと思います。

## 八幡公民館

### 北信濃へ視察研修

大池 佐藤 紀佐子

6月6日(火)、いきいき学級の「中野バラ公園と小布施北斎館の視察研修」に参加しました。

北信五岳を眺めながらバスは中野一本木公園バラ園へ。入場したとたん美しいバラに囲まれ、バラの香りに包まれて心酔。気分上昇。

小さい可憐なバラ、突然変異でできたような表と裏をひっくり返したようなバラなど、見たことのないバラがたくさんありました。

850種3000株の大規模ですが手入れが行き届いており、心を楽しませてもらいました。

5月21日(日)に親子ハーブリース教室にお父さんといっしょにさんかしました。はじめは、細長い花や木の

戸倉公民館  
親子ハーブリース教室にさんかして  
更級小学校 3年1組  
遠藤 恵杜



北斎館を見学

次は小布施北斎館へ。北斎と言えば「富嶽三十六景」をすぐ思い浮かべますが、晩年信州小布施で大作をたくさん残しています。今回小布施にある2基の祭り屋台を見学することができました。驚くほど大きな鮮やかな屋台の天井絵、北斎の「龍と鳳凰」を間近に見ることができて、この土地ならではの傑作に感動し、北斎の情熱が今もここ小布施に息づいていることを心に強く感じる視察研修でした。

もち帰ってきてきて、おばあちゃんとおじいちゃんの家について、わたしの家に1つずつげんかんにかざりました。ハーブリース作りは思っていたよりむずかしかったです。楽しかったので、またやりたいです。

えだなどがたくさんあって、どれを使って何をやればいいのか分かりませんでした。それから先生に作り方を教えてもらったので、わたしとお父さんで「これをここにつけたらかわいいな、ここをもう少しこうしたらいいかな」といっしょに考えました。リボンやビーズなどもたくさんの中からお父さんは水色のリボンと、みどり色のビーズをかざりました。わたしとお父さんで考えたことをいっしょに考えて、わたしハーブリースを2つ作りまし



作業開始です。これはどうする？



スパイクの瞬間

6月11日(日)、支分館親善球技大会が行われました。今回の大会は「台風19号河川敷グラウンドの復興及びコロナ復興祈念」と銘を打ったソフトボールとソフトバレーボールの2種目でしたが、残念ながら当日は雨のため、ソフトボール大会を開催できませんでした。ソフトバレーボール大会は、大きな怪我をする選手もなく、安全にでき、大変嬉しく思いました。勝敗を超えて各支分館が楽しみ、上山田地域の繋がりが広がった大会になりました。

上山田公民館  
4年ぶりに開催された支分館親善球技大会

更埴地区短詩型文学祭 作品募集  
千曲市と坂城町で構成する更埴公民館運営協議会では、第28回更埴地区短詩型文学祭を開催します。応募要領と投稿用紙は最寄りの公民館に用意してありますので、奮ってご投稿ください。  
【募集期間】 7月3日(月)～8月31日(木)  
【募集部門】 短歌・俳句・川柳・現代詩  
【投稿料】 応募用紙一枚につき500円(小・中・高校生は無料)  
【投稿先】 各公民館

千曲市誕生20周年記念事業 市民講座を開催しました  
7月2日(日)、信州の幸あんずホールに女優のいとうまい子さんをお迎えし『学び直し』のすすめ～新たなキャリアを切り拓く～』と題して、市民講座を開催しました。391人の参加がありました。



令和5年度 千曲市成人式のお知らせ  
日時：令和6年1月7日(日)  
受付：午後1時～ 式典：午後1時30分～  
会場：信州の幸あんずホール  
成人式対象者：  
平成15年4月2日から平成16年4月1日の間に生まれた市内に住所がある人と、市内の小学校に在籍した人です。  
\*対象者には11月中旬に案内状をお送りします。  
問い合わせ先：稲荷山公民館(成人式当番館) ☎026-272-1009  
または、最寄りの公民館まで。

開催するにあたり、協力いただきました審判団・各支分館役員の皆さんに感謝申し上げます。  
優勝 新山分館A  
準優勝 力石支館A  
3位 漆原分館B  
敢闘賞 温泉分館B

# 特集 語り継ぎたい わたしの戦争体験

この特集の記事は、戦中・戦後の苦難な時代を生き抜いた方々に、体験された多くのことを文章にまとめたいと思います。  
戦争の悲惨さを、戦争を知らない世代に語り継いで行く契機となれば、と始めたこの特集に、今年も原稿をお寄せいただきました。感謝を申し上げます。同時に、戦争体験記をおし、戦争の悲惨な真実を次の時代へ語り継いでいただければ幸いです。

## 平和な日本を願い 涙を流した亡き兄

今井町 宮本 友吾

私は昭和13年生まれの85才です。6人兄妹の末っ子で、生まれ育ったのは上田市丸堀町です。

我が家では母が機械を使って手袋を作る仕事をしていましたが、昭和16(1941)年に始まった太平洋戦争が激しくなり銃器などを作る鉄として、母が使っていた機械も持って行かれてしまいました。その時の母の落胆ぶりは今も忘れることができません。



昭和18年頃の妻の亡父です

進前道の毎日だったと聞かされました。そんな中、昨日も一人、今日も一人と倒れて行く友と辛い別れをして来たことでした。兄は戦後1年半ほどして帰国しました。その間、帰国情報を受けるとその都度上田駅まで迎え

昭和8(1933)年、陸軍省に献納され軍用機の飛行訓練場となっていた上田飛行場は、我が家から直線で1.5キロくらいの所にあり、戦争末期には米軍のB29戦闘機が、屋根すれすれに怪物のような大きな機体が飛行場目掛けて爆撃していくのでした。

隣に全盲のご夫婦が住んでおり、空襲警報が鳴るたびご夫婦の手を引いて裏の防空壕へ逃げ込むのが常でした。その頃、17才年が離れた長兄は、ビルマへ派兵されており、ジャングルの中、道なき道をただただ日本軍勝利を信じ一日中歩き、戦友と共に前

に行きましたが、半年経っても1年経っても兄の姿はありませんでした。

一日千秋の思いで、やっと上田駅にその姿を見たときは、家族皆で泣いて喜びました。軍服姿の兄のポケットには焼き芋が一切れ入っているだけでした。

何十年か経ち、兄は妻を亡くした数か月後に脳梗塞で倒れて入院しました。入院が続く中、喋ることもできなくなり、病状末期の頃兄の長男が病院に行くと、病室で看護師さんが慌てている様子に「何かありましたか」と尋ねると「意識は無いのに、震えて涙を流していた」とのことでした。きつと、戦争中ジャングルで一人また一人と亡くなつて行く戦友のことを夢に見て、涙を流していたのだと思わずにはいられませんでした。そしてその涙は私たちに二度とこのような悲惨な戦争を起ささないよう、平和な日本を築いていくようにと訴え

る涙であったように思いますが。

## 米寿を迎える男の人生

内川 荒井 照雄

当時は、祖父母、父母と6人の兄弟姉妹と父の弟の子4人が長野から疎開してきていたので、大勢で暮らしていました。家は長野市松代町岩野寄りの土口で小売りの酒屋を営んでおり蚕も飼っていて、桑の葉をあげる手伝いをしたものです。

出掛けることはあまりありませんでしたが、年に一度くらい長野の親戚の家に行くときに長野電鉄線雨宮駅から電車に乗ることが楽しみでした。遊びと言ったら近くの沢山川や千曲川で川遊びすることが楽しみでした。

祖父は普段から着物を着ていて、私はいつも4つ上の兄のポタンの取れたお下がりを着ていました。母のもんぺ姿を思い出します。当時は、物がなく、運動靴は、クラスで2、3足の配給で抽選のため、当たったことはなく、いつも家で作った草履を履



昭和25年4月15日 古大穴神社御柱祭の家族写真

ていました。終戦の年、私は雨宮小学校3年生でした。入学した時にはもう校庭は、いも畑になっていて、体育館は軍事工場でした。小学校には田んぼもあって稲刈り等をしたことが思い出です。食べ物が少ない頃で、いつもおなかがいっぱい空いていました。私はいたずら坊主で、ある時仏壇に上がったお団子を食べてしまいました。すると母に「この家には黒いねずみがいる」と言われたものです。戦後になると「ヘイ、ヘイ」と声を掛け店の前に車を停めた進駐軍の兵士から飴玉をもらいました。

今も思い出す出来事のひとつは、ラジオから空襲警報が流れると、近くの土口公民館にあった火の見櫓に登って半鐘を叩くのが私の日課でし



た。当時の火の見櫓は木で作られていました。その日も半鐘を叩いていると、まさに攻撃のため長野方面に飛んで行く飛行機と搭乗するパイロットが見えたのです。その飛行機が山の向こうに姿を消してすぐに、それはそれは大きな爆撃音が聞こえてきました。後でそれが、昭和20年8月13日の長野空襲と呼ばれる国鉄長野駅舎や長野機関区の空襲だったと知りました。

もうひとつは、昭和20(1945)年8月15日正午の玉音放送です。私は、祖父母、父母と兄弟姉妹とその放送を聞きました。子どもだった私には難しい言葉で理解ができませんでした。しばらくして、放送が終わると母が振り向いてこう言ったのです。「戦争に負けたんだった」それでようやくわかりました。今でもあの声が耳に残っています。

忘れられない記憶です。私は、今年ダイヤモンド婚を迎え、来年は米寿を迎えます。良き仲間、良き先輩、良き後輩に恵まれ、支えられて今があります。

戦後、私は高校を卒業して東京に就職しました。当時、竈で煮炊きしていた田舎から初めて見るガスコンロに驚いたことなど思い出たくさん、エピソードをたくさん、約6

年勤めました。それでも長野が恋しくなって戻り、就職して結婚して子どもが2人、孫が5人、ひ孫を4人持てました。今静かに終活を始めています。

今の世の中はどうでしょうか。ロシアのウクライナへの軍事進攻が行われ大変な世の中になっていきます。世界中が大迷惑であり、尊い命が失われる。皆が仲良く話し合い解決する努力が欲しい。戦争は、二度とてはいけません。皆が心豊かに・・・

私は雨宮に40年余り住んでいます。高校の歴史の教員として高校生と松代大本営などの調査、退職後は長野市安茂里の方々と「昭和の安茂里を語り継ぐ会」事務局長として大本営海軍部壕の調査に携わって来ています。

海で戦う海軍が、信州の山の中に最高司令部を構築していた！  
雨宮 土屋 光男

それまでは「海軍は陸軍と真逆で、開戦には反対し、末期にはできるだけ早く戦争を終わらせようとしていた」と認識していました。

しかし、旧安茂里村小市の

塚田伍八郎村長の残した日記に出会いそれまで学んだことがない概ね3つの驚くべきことが書かれていたのです。

一つ目は、海軍の壕を掘った第300設営隊の公文書にはない昭和20(1945)年7、8月の動き。二つ目は、林部隊という陸軍の工兵隊が犀川神社付近ほか3か所に穴を掘っていたこと。そして三つ目は、元長野市長塚田佐宅を本部とした海軍の藪田部隊が安茂里国民学校小市分教場などにいたことです。

地元の長老などと共に、その記述が確かか調査・聞き取りを開始する中で「昭和の安茂里を語り継ぐ会」を結成して3年半余り、次のようなことが分かりつつあります。

第300設営隊・林部隊・藪田部隊の3つの陸海軍部隊の動きはどれも深い関連があるようです。

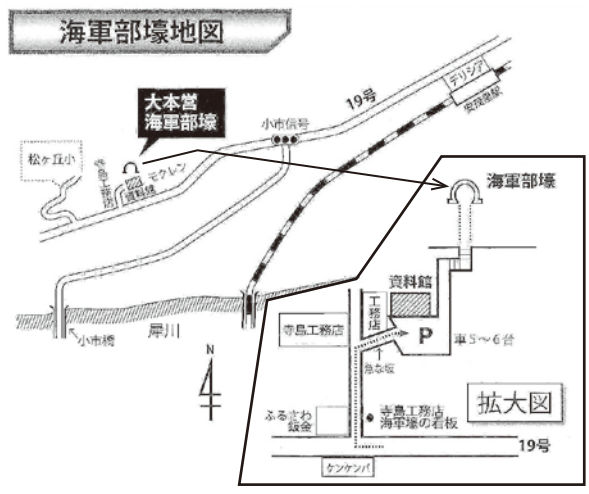
横須賀から派遣された第300



大本営海軍部壕の内部

設営隊は、200以上あった海軍設営隊で第3010設営隊と並ぶ「虎の子」部隊で、最高司令部である軍令部(大本営海軍部)1000人を収容するための壕を、村挙げての協力を得て小市真当の裾花凝灰岩(白土)の山裾に掘っていました。また林部隊とは「捷36395部隊」正式名称「独立工兵第94大隊」のことで、房総半島で米軍上陸に備えて昭和20(1945)年6月に編成されたのが、7月8日に急遽参謀総長指揮下に入り安茂里に派遣されて海軍用の通信施設として5本の地下壕を掘っていたと思われる。

さらに、海軍きつての通信に卓越した幹部を集めた極秘通信隊、藪田部隊は、連日松代に出かけて「海陸軍共同の中央通信施設を象山地下壕に整備中」だったと推定されます。これらから、海軍も安茂里に最期の司令所などを構築、本土決戦を叫ぶ陸軍と最終的には両軍一体化をも標榜しつつ、長野(およそ長野市と須坂市・中野市・旧更埴市の範囲)の地で臨戦態勢を懸命に整えつつあったのだと言わざ



るを得ません。そのことを考えると、最終盤には原爆を落とされたかもしれないと背筋が寒くなります。

海軍が開戦に反対し得るだけ早く戦争を終わらせようとしていたという「通説」は「海軍善玉論」「陸軍悪玉論」と対)で、海軍だけは何としても温存して、その技術や人材を戦後復興に活用しようとの狙いから意識的に流布されたのだそうです。

従って、その論に都合の悪い書類などは徹底的に焼却処分され、軍人は黙秘を求められました。調査でも、例えば藪田部隊の将校下士官は家族にも終戦時信州の小市に駐留していたとは一切話していま

せん。ですからこの日記などでしか史実が明らかにできないのです。

「昭和の安茂里を語り継ぐ会」10数人の会員は、土に親しみふるさとをこよなく慈しんできた安茂里住民で、「これを解き明かすと教科書が変わる」と誘われた方々です。しかし、今ではそれこそ目

### これから平和を願って

#### 伏竜特攻隊

屋代 吉澤 勝博

ここに1冊の本があります。汐文社から発行された『新世紀に語り継ぐ戦争』と題した本で、義理の叔父から生前にいただいたものです。この本には、叔父を含め21人の悲惨な戦争の体験が綴られています。

叔父は太平洋戦争の末期、16歳で人間機雷「伏竜特攻隊」の隊員として横須賀の久里浜で訓練を受けていました。

特攻隊といえば、ゼロ戦の「神風特攻隊」や人間魚雷「回天」を思い浮かべますが、「伏竜特攻隊」はアメリカ軍の本土上陸を想定して海底に潜水服を着て待ち伏せし、棒付き機雷で敵を攻撃しようとする

の色を変え、子どもたちと一緒に調査や聞き取り、海軍部壕の保全や案内などをしていきます。

千曲市のみなさん、地図を参考に、ぜひぜひ安茂里小市にお出かけください。見学は予約制ですが、時間など詳細は、屋代公民館へお問い合わせください。

作戦で、機雷が爆発すれば水を伝わる爆圧で隊員はほぼ確実に死に至る、日本海軍最後の特攻隊といわれています。

終戦により伏竜特攻隊が実戦に投入されることはなく、叔父は無事復員することができましたが、訓練中の事故で亡くなった犠牲者も多いと記されており、死の恐怖と戦う過酷な体験は筆舌に尽くせないものであったと思います。

戦後78年、戦後生まれの私には戦争の悲惨さや理不尽さは、活字や報道などでしか知ることができませんが、世界では今なお戦争に苦しんでいる人々がいます。

平和な時代に生まれたことの有難さを噛みしめるとともに、戦争のない世界、戦争により犠牲となる人のいない世界の実現を願うものです。

#### 私ができること

増生 宮坂 節子

館報増生公民館復刻版を読んだ。昭和23(1948)年3月からのもので、今の市報に載っているような予算や税の改正などをはじめ多種多様な内容であり町民の意識向上を図る意図が伝わる。

青年会・婦人会・PTA・町内未亡人の団体などが立ち上げられ、役員や規約までが載っている。

今みんなの気持ちを一つにまとめてきた青年会・婦人会・PTA・町内未亡人の団体は、戦後の長い時代の中で、役目を終えたり形を変えようとしている。公民館報でも戦争体験が高齢化で特集を組むのが難しくなってきた。でも戦争の体験を館報のような身近な冊子で伝えることが大事ではないかと思う。ウクライナのようなことを隣村や自分の村の人たちが体験していた!ということが。

何かを変えようと思っても一朝一夕にできるものではなく長い時間がかかる。今はテレビや新聞、SNSなどで瞬時にニュースは伝わるが、あまりにも多様化しすぎて自分の興味のあるものは読むが、興味がないと読まない。

戦争は悲惨であるとわかっていても過去では起ってしまった。今の日本の情勢を見て、過去の二の舞にならないよう自分に何ができるか、平和ボケになってしまった私には難しい。せめて館報や新聞など身近な記事をしっかり読んでいきたいと思う。

#### 戦争について思う

八幡 柿崎 久

「なぜ、こんな悲惨な戦争を始めたの?いつまで続ける気なの?」毎年公民館報に載る戦争体験を読み胸が痛んだ。戦争は、始めるよりも止める時の決断が難しい。各地で敗戦が続いても、松代や安茂里などに地下壕を掘り、国民を犠牲にして戦うつもりだったのだろうか。最悪の事態を受け、終戦を決断し、8月15日を迎えた。

現在も世界各地で争いが起き、たくさんの人々が亡くなっている。これからも地球上で争いがなくなると思えないが、人々が安心して平和に生活が出来るように争いがなくなることを願うばかりだ。

#### 今は亡き母を思う

八幡 久保田 唯夫

母は1男3女の末っ子として生まれ、独身時代は女学校で槍投げをするぐらいの活動的な女性だった。

6人の小姑のいる父と結婚し子どもが2人生まれ父に赤紙がきて、そして人生が変わった。戦時中、父のいない生活は、食料の争奪に明け暮れていた。戦後、父はすぐには帰らず、1人きりの兄が戦死した。心さみしさが益々募るばかりだったと思う。

私は戦後生まれだが、父も戦死していたら、この世に生まれていない。貴重な命を大切に、母が受けた苦しみは二度と起こさない世の中になりたいと思う。

#### 今すべきこと

上山田 宮下 恵理子

戦後生まれの私にとって、戦争について詳しく知るにはメディアや本に頼るしかない。最近では『ラーゲリアよ愛を込めて』を観て、シベリアでの日本人捕虜の過酷な生活と家族愛に涙した。しかし、今回過去4年間の公民館報の戦争体験を読み直したと



ころ、心が震え、それは映画などとても及ばないものだった。体験によれば、とにかく生きるのに精一杯であったことがうかがえる。青少年に甘く香る青春はなく、勤労奉仕に出たり、家を守り両親を助けるために野良仕事を手伝っていたという。戦死しても遺体や遺骨も無くただ1枚の通知か小石が入った骨箱が届くだけ。子どもたちを一人前にするために強く振る舞い、苦勞する母。「お父さんについて作文を書きなさい」と宿題が出ても書きようがわからず未提出で、作文の発表会では他の子のお父さんとの楽しい思い出話をただ聞くだけだった子。母も子どもどんなに辛かったであろうか。胸をえぐられる思いがした。

それに比べ今の私たちは衣食住に恵まれ、さらに自分のより良い生活を求め欲求を肥大化させている。家のため、家族のため、我慢、忍耐という言葉も耳にしなくなってきた。しかし、今こうして平和に暮らしているのは多くの犠牲者と苦勞を乗り越えてきた方々のお陰であるのだから、感謝の心を持ち続けなければと自分に言い聞かせた。

ロシアのウクライナ侵攻から1年が過ぎ、戦闘はますます泥沼化し「ロシアが勝利す

るか、人類が滅亡するかの二者択一」と分析する人もいて恐ろしい。先日2030年夏頃に北極海の氷がすべて溶けて消失するとのニュースを見て戦争をしている場合ではないと憤りを感じた。ホーキング博士は40年前「いまの地球ほど文明が発達した惑星は自然環境が破壊され、宇宙時間でいえば一瞬のうちに死滅してしまう。あと100年くらいだろう」と予言したが、それが正しければあと60年しかない。人類と大自然が共生できない平和な地球を築いていけるよう世界が一丸となるのが最優先ではないかと思う。

### 松代象山地下壕で

稲荷山公民館

6月22日(木)、「さわやか教室」の市外研修で、松代象山地下壕の見学をしました。松代文化財ボランティアの会の方に、案内をしていただきました。

参加者から感想・平和への思いをお聞きしましたので、紹介します。

☆近くにいるのに、初めて訪れました。昭和19(1944)年11月に工事が始まり、翌年8月15日の終戦の日まで作業が行われたとのこと。岩

盤が堅いため等の理由で、大本営移転の地に選ばれました。私たちが見学できるのは500坪の区間ですが、全長は10kmにも及ぶそうです。これを約9か月の間で、8割方掘り抜いたことに驚きです。碁盤の目状に縦横に伸びた壕を進むにつれて、その堅い岩盤を掘削する危険で過酷な作業はどんなものだったか、想像することができないほどでした。

☆強制的に動員されたかは定かではないが、現地を見て、これだけの作業には相当数の人出と過酷な労働環境が想像できる。

☆戦後、訪れる人も少なく忘れ去られようとしていた地下壕を、見学できるきっかけを作ったのが、旧篠ノ井旭高校の生徒であり長野市への働きかけによるということが素晴らしい。そのおかげで歴史の事実と直接触れることができ、貴重な戦争遺跡が多くの人に知ってもらおうこととなり良かった。

☆本土決戦となり、実際に松代に大本営が移っていたら、付近は戦場となり、もしかしたら原爆が投下されていたかも…

☆地下壕をもっと多くの人が見て、平和な世界は大事と後世に語り継ぐ、貴重な遺跡として大いに役立つことを願います。

## 第52回 上山田文化祭

●会場● 上山田文化会館

開催日程

11月4日(土)	
展示発表	9:00 ~ 17:00
ふれあいのど自慢	15:00 ~ 17:30
11月5日(日)	
展示発表	9:00 ~ 15:00
囲碁大会	9:00 ~ 16:00
青空市	10:00 ~ 14:00
舞台発表	10:30 ~ 15:00

### ◆ふれあいのど自慢参加者募集

本年4年ぶりに開催予定のふれあいのど自慢に参加してみませんか。  
 (申込先) 上山田公民館(上山田文化会館内)  
 (申込方法) 公民館に用意してある「申込用紙」に必要事項をご記入の上、期日までに上山田公民館に提出してください。  
 (申込締切) 9月17日(日)

問合せ先 上山田公民館 ☎026-276-5842

## 第21回 更埴地区文化祭

●会場● 信州の幸 <sup>めぐみ</sup> あんずホール (更埴文化会館)

開催日程 11月11日(土)~12日(日)

### 参加者募集！ 作品展示・舞台発表希望の方は

(申込先) 屋代・埴生・稲荷山・八幡の各公民館  
 (申込方法) 公民館に用意してある「申込用紙」に必要事項をご記入の上、期日までに各公民館に提出してください。  
 (申込締切) 9月8日(金)  
 (申込範囲) 更埴地区にお住まいの方、またはお勤めの方で構成する、グループ・サークル等(学生は除く)。  
 ※詳細は各公民館へお問い合わせください。

問合せ先	屋代公民館	☎026-272-0234
	埴生公民館	☎026-272-0055
	稲荷山公民館	☎026-272-1009
	八幡公民館	☎026-272-1076

## 第30回 戸倉文化祭

●会場● 戸倉創造館

開催日程

作品展示の部	11月25日(土)	11:00 ~ 16:00
	11月26日(日)	9:00 ~ 16:00
舞台芸能の部	11月26日(日)	9:30 ~ 15:00

問合せ先 戸倉創造館 ☎026-275-6700

もっと知りたい

ふるさと

# 93 大池の百八灯と小松姫

※「館報ちくま」及び「もっと知りたいふるさと」は千曲市ホームページでご覧になれます。

大池地区（大池新田村）は、徳川家康の養女・小松姫が真田信之（真田昌幸の嫡男で幸村の兄。後に松代藩初代藩主となる）に嫁いだ際に、化粧料として小松姫に与えられた土地と伝わっています。

小松姫は徳川四天王の一人である本多忠勝の息女であり、天正17（1589）年に真田信之への輿入れにあたり、徳川家康の養女となりました。この輿入れは、戦国時代に「表裏比興の者」として恐れられていた真田家に対し、徳川家との結び付きを深め、真田家を徳川方に引き込む狙いがあったものと思われま



108基の塔

合戦の際には、真田昌幸・幸村父子が石田三成の西軍、真田信之が徳川家康率いる東軍に分かれて戦うこととなりました。西軍に与した昌幸が下野国（栃木県）犬伏から上田城に向かう途中で、上野国（群馬県）沼田城に立ち寄ろうとした際、沼田城を預かっていた小松姫が「たとえ親子であっても敵を城内に入れることはできない」として、昌幸を拒絶したというエピソードも伝わっています。元和6（1620）年に小松姫が病



送り火の様子

で亡くなります。その2年後に真田信之が松代に移封されると、大池新田村は小松姫の菩提寺である松代の大英寺領となりました。大池新田村では「大暗庵」というお堂を建て、小松姫を「万年様」と呼んで親しんでいました。

大池区では、近年まで小松姫の命日にあたる2月24日に供養を続けてきました。

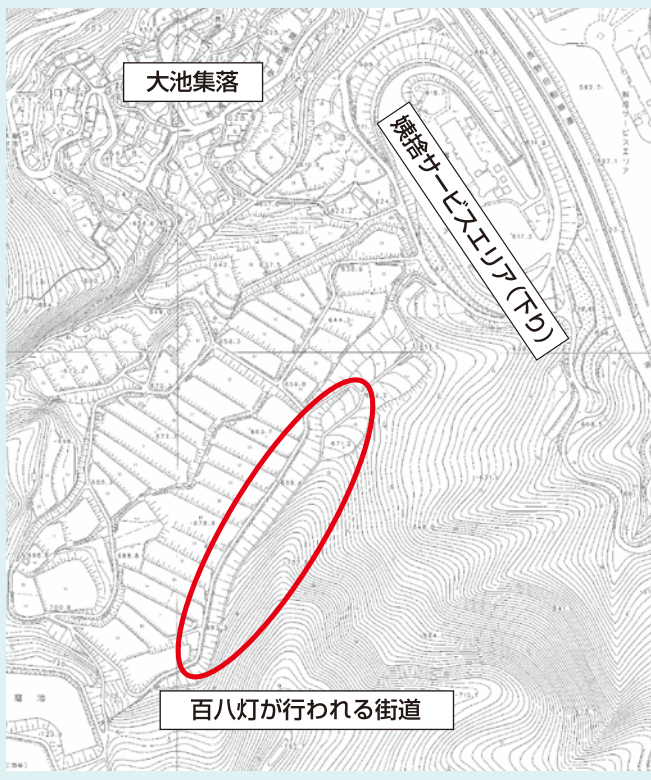
「大池の百八灯」は、小松姫の遺徳を偲んで始まったと伝えられている送り盆の行事で、平成27年に千曲市無形民俗文化財に指定されました。

毎年8月16日の夕暮れ時、一本松峠に向かう街道である

古道（大道）にワラで108基の塔を作り、上部から順番に火を点けていきます。最後に点火する塔は松や竹などを使ってひととき大きく作られていて、勢い良く燃え上がる様子は、ふもとの八幡の集落からも見る事ができます。

「大池の百八灯」は、地区の子どもたちが主体となって行われてきました。少子化で子ども数が少なくなつたため、現在では大池区全体で行われています。歴史と伝統のある民俗行事が今後も末永く継承されていくことを願ってやみません。

千曲市歴史文化財センター  
小野 紀男



## 編集後記

8月号は、今年も「語り継ぎたい私の戦争体験」を特集した。戦地から帰還された父や兄に寄せた思い、「大本営海軍部壕」を詳らかにした調査書、戦中戦後の生活等の寄稿をいただいた。

生きて戻られたMさんのお兄さんも、次々と倒れていった戦友をご臨終の時まで思い続けた戦争の犠牲者であった。私の兄も10代で志願して海軍に入り、教育を受けて戦争に臨んだ。横須賀から戦地へ赴く途次、終戦を迎え程なく父母弟妹の待つ元に帰ってき

た。しかし兄は戦争を語ることはなかった。

私と16歳違う兄が帰って来ていなかったらと思う時、兄にもらった見守りや励まし、教えや示してくれた道しるべに尽きぬありがたみと生きて会えたお陰を思う。

ロシアによるウクライナ侵攻では、双方とも決着するまで兵士市民の犠牲はいとわなにかに映る。日本も、防衛力の抜本的強化を進めるためとして防衛費を増やそうとしている。

戦後78年、今なお戦争の犠牲者があることを忘れてはならないと改めて思う。

（植生・K）